

米CPI発表で、追加利上げ観測が高まる

ポイント① 米CPI、伸びは落ち着く

12日発表の9月の米CPIは前年同月比3.7%の上昇と8月と同水準となり、加速していた伸びは落ち着いたものの同3.6%の市場予想を上回りました。項目別では、前年同月比でサービス、食品、商品のプラス寄与度は縮小した一方でエネルギーがマイナス寄与の幅を縮小しました。また、変動の大きいエネルギーと食品を除くコアCPIは同4.1%上昇と、8月の同4.3%を下回り鈍化傾向にあります。

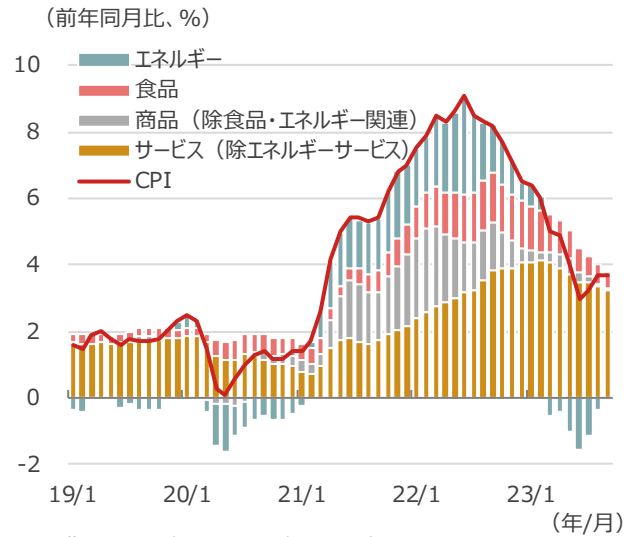
ポイント② ガソリン価格や住居費に注意

米CPIを前月比で見ると0.4%の上昇と、8月の同0.6%の上昇から伸びは鈍化しました。しかし、住居費が前月比で0.6%の上昇と8月の同0.3%から加速しており、9月の米CPIの伸びの半分以上を占めています。住居費は米CPIの約3割を占めており、今後の動向を見極める必要があります。また、ガソリン価格の高騰も目立ち、前月比2.1%の上昇と8月の同10.6%からは鈍化しているものの高い水準で推移しています。OPEC（石油輸出国機構）プラスの原油減産や中東の地政学リスクの更なる高まりによりガソリン価格の高騰が続けば、他のサービス価格にも波及する可能性があり、インフレ圧力には注視が必要です。

ポイント③ 追加利上げ観測が高まる

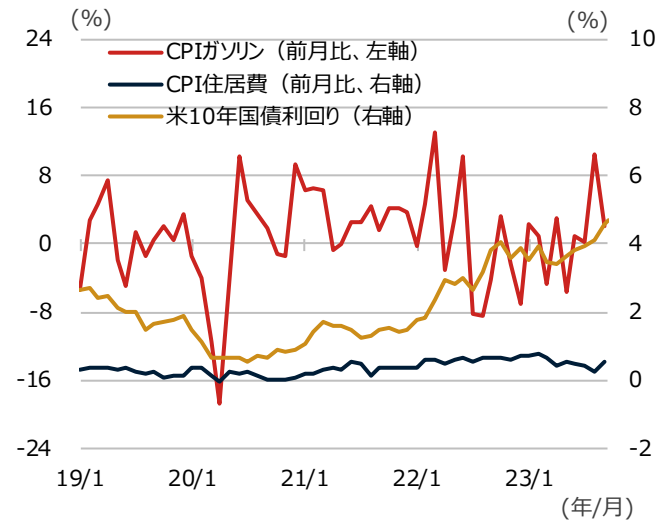
米CPIの結果や米国債入札の不調を受け、米10年国債利回りが4.7%程度に上昇、為替は1米ドル=149円台後半と円安に振れました。市場ではFRB（米連邦準備制度理事会）による年内の追加利上げ観測が高まりましたが、急上昇した米国債利回りが景気を抑制するとの見方もFRB高官内にあり、FOMC（米連邦公開市場委員会）での判断に注目が集まります。

米CPI（消費者物価指数）と項目別寄与度の推移



期間：2019年1月～2023年9月、月次
(出所) Bloombergより野村アセットマネジメント作成

米消費者物価指数（ガソリン・住居費）と米10年国債利回りの推移



期間：CPIガソリン、CPI住居費 2019年1月～2023年9月、月次
米10年国債利回り 2019年1月末～2023年10月12日、月次
(出所) Bloombergより野村アセットマネジメント作成

**重要
イベント**

- 10月17日 米小売売上高、米鋳工業生産指数 (9月)
- 10月27日 米個人消費支出デフレーター (9月)